

令和 4 年 8 月 30 日現在

機関番号：32616

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K11604

研究課題名(和文) 小学校体育授業担当者(学級担任、体育専科教員)の在り方に関する総合的研究

研究課題名(英文) A research on the aptitude of elementary school physical education teacher

研究代表者

細越 淳二 (Hosogoe, Junji)

国土館大学・文学部・教授

研究者番号：70365526

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、小学校体育授業担当者として、学級担任と教科担任・専科教員のいずれが適切なのかについて、エビデンスをもとに検討することを目的としていた。約2700名を対象とした調査研究から、その約45%が体育授業を教科担任・専科教員が受け持つのが望ましいと感じていること、しかし体育を手放すのではなくITで学級担任が関わるのが望ましいと考えている者が約70%にのぼること等確かめることができた。また実践研究の結果から、学級担任であってもコンサルテーションがあれば高い授業成果を導くことが可能であることや専科教員であっても経験値が少なければ専門家としての指導成果を得ることは難しい等の結果を見ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2022年度より、全国の小学校では高学年の体育授業へ教科担任制を導入する取り組みが始められた。これを踏まえて本研究では、学級担任と教科担任・専科教員それぞれが導く授業成果や、教師達が教科担任・専科教員の導入に関してどのような意識を抱いているのかを調査・分析した。このことを通して、子どもたちや各学校の実態に照らして、より適切な体育授業実施体制を確立するための条件について、エビデンスをもとに検討しようとした。本研究で得られた結果は、教師教育学的な側面から見て今後の課題と方向性を導くものであると同時に、教科指導の体制構築の側面においても、一定の意義を有するものであったといえる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to examine about the aptitude of elementary school physical education teacher (classroom teacher, specialized PE teacher). In this study, we implemented a survey about the aptitude of elementary school PE teacher. The subjects of this work were about 2,700 elementary school teachers. The results of analysis, about 45% teachers answered the specialized teachers have the PE class is desirable. But about 70% teachers answered the "Team Teaching with specialized teacher" is desirable. From these results, many elementary school teachers think that they want to commit to PE class for understanding their children. From the lesson study, classroom teacher could get highly evaluation with consultation from supervisor. Additionally, even if the specialized teachers teach PE, if they do not have rich teaching experience, they get poor evaluation. From these findings, we concluded that we try to examine this matter through more observation and analysis.

研究分野：身体教育学

キーワード：小学校体育授業担当者 学級担任 教科担任 専科教員

## 1. 研究開始当初の背景

小学校期の子どもたちにとっての体育授業は、誰がどのように行うのが望ましいのだろうか。従来、体育授業は学級担任の教師が担当してきたが、近年、より専門的な知識と指導力量を備えた教員（指導者）による授業が推進されるようになってきている。例えば、2010年に策定された「スポーツ立国戦略」（文部科学省、2010年）では、スポーツ立国を円滑に進めていくための方策として「小学校体育コーディネーター（仮称）の設置」が盛り込まれ、体育授業の成果向上に向けた人材の活用が謳われた。加えて「第2期スポーツ基本計画」（スポーツ庁、2017年）においても、「小学校体育専科教員の配置」という項目が示されており、体育を専科として指導する教員の配置が明確に目指されるようになってきている。すでに高知県や愛媛県、さいたま市など複数の自治体では、特定の学年・教科を専科制あるいは教科担任制として、体育授業の教育成果の学級間格差が生じないように努めているし、品川区では「アクティブ・ライフ・プロジェクト」という区の教育施策のひとつとして「テクニカル・アドバイザー制度」を立ち上げ、各校の体育授業に専門的力量を備えた指導者を雇用・派遣して、チーム・ティーチングの形でサポートする取り組みも始まっている。

では学級担任が行う体育授業の意義は、すでに見当たらないのだろうか。体育授業は、心と体をフルに用いて展開される学習活動であるから、子どもたちの心身両面の実態を捉えやすいというメリットがある。また身体的自由度の高い中で展開される体育授業をうまくマネジメントできることは、学級担任としての指導力量を発揮し、指導力自体を向上させる大きな機会を教師に保障することにもなる。運動会や体育的活動などの際、学級担任も含めて学級全体が運動活動を通して一体感を得る重要な機会となっていることから、その事実が読み取れる。

学級担任による体育授業については、千葉県八千代市立勝田台小学校が、過去47年間にわたって「学級経営と体育」を研究テーマに取り組んでいる。若い教員が増えた現在も、よりよい体育授業の追究と、その成果を学級経営に生かすことを求めて取り組みを継続し、大きな成果を挙げている。特に本校に赴任した若い教員が、学級をまとめあげる能力、子ども一体となって取り組み、成果を共有する人間性を高めていく様子は、毎年、行われる学校公開の参加者の感想から明らかである。つまり、体育授業を受け持つことで、子どもの成長のみならず、「教員としての成長」を得ることもできるというのは、これまでも語られてきたところである（細越淳二、教師が育つ勝田台小学校、体育科教育61(12):62-65, 2013年）。

これらの現状が見られる中で、具体的に学級担任による体育授業の成果の明示、専科教員や、体育活動コーディネーターによる授業の成果の分析が行われてきたかということ、この点についてはまだまだ丁寧な知見の収集と議論が必要である。また、学級担任と体育専科のチーム・ティーチングによる授業においても、両者の連絡調整や役割分担など、難しさも認められる。各学校の実態や教員の意識、実際の授業成果も含め、エビデンスを元にして小学校体育授業担当者の在り方について検討しようというのが、本研究開始当初の背景であった。

## 2. 研究の目的

上記の背景を踏まえて本研究では、子どもたちにとって、より意味ある体育授業を展開するための授業の在り方を理論的・実践的に検討することを目的に、「学級担任」「教科担任」「体育専科教員」それぞれが担当する体育授業の意義及び効果的な指導の在り方についての理論研究、体育授業担当者に関する調査研究、実践研究を行うことにした。

これらの点を精緻に確認しながら今後の方向性や指導の選択肢を構築することは、子どもたちの豊かなスポーツライフを導くためにも不可欠であり、一方では、より子どもの実態に適した教育方法の選択肢を教師たちに提示することにもなると考えた。

## 3. 研究の方法

理論研究については、諸文献資料を通して、これまでに見られた小学校教科担任制の議論を振り返るとともに、小学校体育授業の意義について整理した。

調査研究は、小学校体育授業担当者（学級担任、教科担任・専科教員）についてのアンケートを作成し、全国約2700名の小学校教員に配布し回答を得た。具体的な項目としては、小学校体育授業を担当するのに適した教員について、小学校体育授業を教科担任・専科教員が担当することのメリットと懸念事項について、小学校体育授業を教科担任・専科教員が担当するのが適当な学年段階について等であった。

実践研究については、学級担任による体育授業と教科担任・専科教員による体育授業を、それぞれ単元を通して観察した。そしてそれらの授業について、形成的授業評価を実施することから授業成果を把握するとともに、そこでの教師行動についても分析を行い、それぞれの担当者の授業成果を導くことにした。

## 4. 研究成果

理論研究の研究成果について見ると、我が国ではこれまでも、歴史的に小学校における教科担任制についての議論が複数回、行われてきたことを確認することができた。具体的には、1960年

代に各地の研究校が先行的な実践を行い、その成果が出版される形で記録されていることが確認されたし、2000年代初頭にも、小学校教科担任制についての積極的な議論が行われていたことが確かめられた。加えて、近年の小学校教育の成果保証あるいは教員の指導力不足といった教育界の問題や、保健体育の教員免許を有する学生の人材活用という視点も含めて、体育・スポーツ界から専科教員の積極活用が謳われてきた経緯を明らかにし、整理することができた。

調査研究では、全国の小学校教員約2700名を対象に、小学校体育授業担当者にはどのような教員が適しているか等についての調査研究を行った。その結果、約45%の教員が教科担任・専科教員が体育を受け持つのがよいと回答している事実を確認することができた。しかし体育授業の全てを学級担任が手放すのではなく、学級担任とのTTが可能ならそうしたいと回答した教員が約70%であることも、同時に確認された。このことは、体育授業を「全て手放す」のではなく、専門的指導をする教員のそばにしながら、体育授業を通して子どもの成長に関与したいという教育的使命と愛情の表れととらえることができた。教科担任・専科教員が体育授業を担当するメリットとしては、知識・技能面の教育成果を期待する回答が多く、反対に懸念される事項としては、学級担任として子どもたちの様子を知る機会が減少すること、子どもとのコミュニケーションを取る場面が少なくなってしまうこと等が挙げられていた。

また学級担任と教科担任・専科教員による授業単元を観察分析した結果からは、子どもの授業成果として顕著な差異は見られなかったものの、ある学級担任の授業ではコンサルテーションを行う専門家がいてくれれば学級担任も大きな成果を挙げられることや、専科教員であっても、その経験値が少なければ専門家としての指導成果を得ることは難しいなどの結果を見ることができた。

本研究における取り組みから、小学校体育授業における教科担任・専科教員の位置付けに関する歴史的経緯やその意義、現在の教員の意識、そして事例的ではあるが実際の授業における成果を把握することができた。これらの知見は、子どもや学校の実態により適した体育授業実施体制を構築するための情報を提供することになるとともに、今後の教師教育に対して、また小学校教科担任制に対する社会的関心に対しても、一定の知見を示すものであったととらえることができる。今後は、より多くの実践を観察分析することから、学級担任、教科担任・専科教員それぞれの授業の特質を明らかにすることが課題として提示された。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 村瀬陽美・細越淳二	4. 巻 38
2. 論文標題 小学校の校庭に関する調査研究 - 6つの視点からの分析 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育学論叢	6. 最初と最後の頁 19-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 京極康高・細越淳二	4. 巻 38
2. 論文標題 体育授業中の教師の学習指導行動についての研究 - 学習指導スタイルと教師の相互作用に着目して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育学論叢	6. 最初と最後の頁 39-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤なぎさ・細越淳二	4. 巻 38
2. 論文標題 小学校2年生（表現遊び）の授業における教師行動の変容についての研究 - N教諭の行動を変えた要因の分析 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育学論叢	6. 最初と最後の頁 55-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細越淳二	4. 巻 (67)5
2. 論文標題 Let'sオリ・パラニング！ - パラリンピック教材「I'mPOSSIBLE」を活用した講義と実技（ゴールボール）の授業（中学校3年生）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 5-8, 70-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細越淳二	4. 巻 67(7)
2. 論文標題 トップアスリートと楽しむラグビーの授業 - リコブラックラムズのスポーツによる地域貢献 (小学校3年生)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 5-8,70-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細越淳二	4. 巻 68(8)
2. 論文標題 全員得点で最高のバスケットボールを創ろう! (小学校6年生)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 5-8,76-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細越淳二	4. 巻 67(9)
2. 論文標題 みんなで創る, 未来へつなげる 男女共習のサッカー授業 (中学校3年生)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 508,76.77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細越淳二	4. 巻 67(10)
2. 論文標題 アイデアいっぱい! フープを使ってみんなで動きづくり (小学校4年生)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 5-8,70-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細越淳二	4. 巻 67(11)
2. 論文標題 子どもたちが精一杯運動できる授業の実現と教師のはたらきかけ(小学校3年生)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 5-8,70-71
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細越淳二	4. 巻 67(12)
2. 論文標題 体育を教えるって楽しい! ~子どもとともに学び合う若手教師のいきいき授業(小学校1・4年生)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 5-8,70-71
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細越淳二	4. 巻 68(1)
2. 論文標題 桃三祭りだ! わっしょい!! - 子どもの運動欲求に応える「体づくり運動」の授業(小学校4年生)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 5-8,70-71
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細越淳二	4. 巻 68(4)
2. 論文標題 ドン!パン!ピタ!で跳び箱名人!! - 全員が伸びを実感できる跳び箱運動の授業(小学校3年生)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 5-8,70-71
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 吉岡正憲・細越淳二
2. 発表標題 体育授業における「教師の発する問い」に関する研究
3. 学会等名 第40回日本スポーツ教育学会（WEB発表）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡邊和紀・細越淳二
2. 発表標題 児童の自己有用感を高める体育学習の指導 -ボール運動「ハンドテニス」の学習指導を通して
3. 学会等名 第3回体育授業研究会Webinar一般研究発表会（オンライン（リアルタイム）発表）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉岡正憲・細越淳二
2. 発表標題 発問を中核にした体育授業の研究 ～ロングスローアップの実践を通して～
3. 学会等名 第3回体育授業研究会Webinar一般研究発表会（オンライン（リアルタイム）発表）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 日本体育科教育学会（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 150
3. 書名 体育科教育学研究ハンドブック	

1. 著者名 白旗和也（編著）細越淳二ほか16名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 光文書院	5. 総ページ数 80
3. 書名 小学校体育はじめの一步	

1. 著者名 細越淳二（監修）細越淳二ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 公益財団法人 日本スポーツクラブ協会	5. 総ページ数 108
3. 書名 日本スポーツクラブ協会公認 子ども身体運動発達指導士資格認定教本	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐々木 浩  (Sasaki Hiroshi)  (20779574)	国土館大学・文学部・准教授   (32616)	
研究分担者	荻原 朋子  (Oguwara Tomoko)  (50365566)	順天堂大学・スポーツ健康科学部・准教授   (32620)	
研究分担者	須甲 理生  (Sukou Riki)  (70614478)	日本女子体育大学・体育学部・准教授   (32671)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件



8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------